



 GS 連続シンポジウム 2008

まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に取り戻す

第5回「水を集め、見捨てられた川を再び故郷の宝に - 三島・源兵衛川」
9月20日(土)15:00-18:20 / 東京大学工学部1号館15号講義室

入場料：一般 / 1000円 学生 / 無料

<http://www.groundscape.jp/>

主催 / GS デザイン会議 後援 / 土木学会 景観・デザイン委員会

サポート / (株)アトリエ74 建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・イー、(有) eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター
(株)コトブキ、(株)GK 設計、清水建設(株)、(株)住軽日軽エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設シビル
日本工営(株)、日本電気硝子(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、ヨシモトポール(株)、(株)ワークビジョンズ

まちづくりへの ブレイクスルー



水辺を市民の 手に取り戻す

GS デザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を超えた専門家間のデザイン体制（コラボレーション）の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。そして現在、全国各地でその成果が着実にたちあられつつあります。とくに、都市やまちのなかで重要な位置を占める水辺に注目し、水辺の整備から『まち』への面的な波及効果を持たせる手法は、津和野川（鳥根県津和野市）や油津・堀川運河（宮崎県日南市）などで大きな成果を挙げており、まちづくりの定石のひとつになると考えられます。

しかし、空間整備を進めるにあたっては、必ずといってよいほど、さまざまな制度や限られた予算、旧態然としたしがらみなどの制約が存在

しています。これまでに実現した良い事例は、いわばそれらと悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多くあるはず。こうした知恵の共有化はまちづくりに携わる人間にとって重要な課題であり、GS デザイン会議は、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民への情報を発信するべく連続シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、現実の壁を乗り越えたデザイン事例の過程に焦点を当てます。まちづくりの現場の問題に対する本音の話を引き出し、どのような人がどのような役割を果たし、最終的にどのような空間に結実したのかを手がかりにし、今後のデザイン戦略を議論します。第5回は三島市の源兵衛川の試みから、まちづくりと河川のあり方を問います。

第5回 「水を集め、見捨てられた川を再び故郷の宝に - 三島・源兵衛川」



写真1



写真2



写真3



写真4



写真1: 三石神社付近
写真2: 広瀬橋付近
写真3: 住民による植栽管理
写真4: 川の中の歩道

源兵衛川は、静岡県の JR 三島駅のすぐ前に広がる楽寿園の湧水を水源とし、市街を流れる全長 1.5km の農業用水路である。2004 年に土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞するなど、これまで数々の賞を受賞している。

古くより三島市は、富士山の伏流水が湧き出でるまちであり、源兵衛川のほかに宮さんの川、四の宮川など数多くの湧水水路が流れている。かつては、その清冽な水を背景に、岸辺に設けられた川端では洗い物をする主婦たちのおしゃべりが、また夏には子供たちが水泳や魚とりをする歓声が響くといった、まさに川は市民の日常生活に欠かせない存在であった。しかし、昭和 30 年頃から市北部の工場群による地下水の汲み上げにより湧水が減少したうえに、各家庭からの排水の増加により、気がつけば川はゴミが浮かび悪臭の漂う、まちの厄介者になってしまっていた。

こうした惨状を憂いた三島市民サロンや三島青年会議所、三島ホテルの会などの市民組織は、それぞれに「水の都・三島」を取り戻す活動をおこなうが、様々な利害関係が存在することもあり、河川環境を改善するまでには至らな

かった。そうしたなか、当時静岡県庁に勤務していた渡辺氏は、ほろ酔い気分で川沿いを歩いた晩に、源兵衛川に浮かぶゴミ袋が生首にみえたことに愕然とし、川を改善していくための利害調整役を引き受けることを決心する。

そこで渡辺氏は、まず自身が所属する県の事業に源兵衛川を組み込み、関係者との協議・調整を図るとともに、事業を推進するための専門家集団を組織する。そして事業を支援する市民組織として、三島市民サロンを設立した中川氏の知己を得て「三島ゆうすい会」を立ち上げる。その後、管理者である土地改良区との数十回にも及ぶ合意形成、八つの市民組織の結集によるグラウンドワーク三島の立ち上げと様々な活動、湧水に代わる水源として工場冷却水を供給してもらうための東レ㈱との数十回にも及ぶ折衝、国を含む行政への様々なアプローチ、源兵衛川の自然環境調査や住民意向調査など、気が遠くなるような活動を 10 年以上も続けた結果、現在のような源兵衛川ができあがった。

当日は、数々の苦難を乗り越え、見捨てられた川が再び故郷の宝に至るまでの過程に光をあてていく。

プログラム

- 司会進行 中井 祐 (GS 幹事長 / 東京大学大学院)
- 15:00 - 15:15 開会挨拶 篠原 修 (GS 代表 / 政策研究大学院大学)
 - 15:15 - 15:45 基調講演 渡辺 豊博 (都留文科大学)
 - 15:45 - 16:15 基調講演 加藤 正之 (㈱加藤正之建築研究所)
 - 16:30 - 18:00 パネルディスカッション + 会場質問
進行役: 内藤 廣 (GS 代表 / 東京大学大学院)
パネリスト: 渡辺 豊博 (前出)
: 加藤 正之 (前出)
: 中川 和郎 (東部福祉情報専門学校)
: 中井 祐 (GS / 東京大学大学院)
 - 18:00 - 18:15 閉会挨拶 内藤 廣 (前出)
 - 18:15 - 18:20 次回シンポジウム告知
 - 18:30 - 20:00 懇親会

登壇者略歴

渡辺 豊博
都留文科大学 教授
1950 年生まれ。東京農工大学農学生産工学科卒業。静岡県入庁後、農業基盤整備事業に携わり、企画部企画総室技監、静岡総合研究機構研究室長などを経て、2008 年より現職。博士(農学)。著書に「清流の街がよみがえった(中央法規)」。「右手にスコップ・左手に缶ビール」を合言葉に、グラウンドワーク三島事務局長として様々な地域活動に取り組む。源兵衛川のキーパーソン。

加藤 正之
㈱加藤正之建築研究所 代表取締役
1946 年生まれ。早稲田大学大学院建築学専攻修了。㈱松田平田坂本設計事務所を経て、1981 年加藤正之建築研究所設立。建築設計業務と並行してまちづくり・村おこし業務を手がける。源兵衛川の親水河川整備の設計監理に従事し、現在もグラウンドワーク三島理事を務める。設計作品に、境川清住緑地、宮さんの川ホテルの里、姿見の池、烏帽子池等の水辺修景など多数。

中川 和郎
東部福祉情報専門学校 校長
1930 年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。大昭和製紙㈱を経て、建設大臣、静岡県知事などを歴任した齊藤滋与史氏の私設秘書を長く務める。1973 年に「三島市民サロン」設立以来、映画「我が街三島-1977 年の証言」の企画製作、文化講演会の開催、「芸芸三島」創刊・編集、「三島ゆうすい会」など、故郷三島のために献身的な活動をおこなう。グラウンドワーク三島副理事長。

内藤 廣
東京大学大学院 教授
1950 年生まれ。早稲田大学大学院建築学専攻修了。フェルナンド・イゲラ建築設計事務所、菊竹清訓建築設計事務所勤務を経て、1981 年内藤廣建築設計事務所設立、2003 年より現職。設計作品に、海の博物館(日本建築学会賞)、牧野富太郎記念館(毎日芸術賞、土木学会デザイン賞最優秀賞)、苦田ダム管理庁舎、鳥根県芸術文化センター、JR 日向市駅など多数。

中井 祐
東京大学大学院 准教授
1968 年生まれ。東京大学大学院土木工学専攻修了。(株)アプル総合計画事務所、東京工業大学社会理工学研究科助手、東京大学大学院工学系研究科助手を経て、2004 年より現職。工学博士。設計作品、設計指導に、岸公園(鳥根県)、宿毛河戸堰(高知県)、北上川分流施設(宮城県)、松田川河川公園(高知県)、第二西海橋(長崎県)、片山津水生植物公園(石川県)など多数。

参加申込方法 / WEB サイト <http://www.groundscape.jp/sympo/080920/> の応募フォームからお申込みいただくか、会員(個人・サポート・ユース) / 非会員・氏名(ふりがな)・所属(会社名または学校名)・連絡先(メールアドレスまたは電話番号)・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにて GS デザイン会議事務局までお送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先 / GS デザイン会議事務局
電話: 03-5805-5578 / FAX: 03-5805-5579
Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: info@groundscape.jp

